

- 1 だいちくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは一ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二はんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらく(こと)にぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三はんめのマスから書き、あたまをそえましよう。

(月 日 曜日)

か、こいいたき、千ひろたき

神山小学校 四年 岩川 岳斗

ぼくの通っている学校から車で約十五分山に登ると、ぼくの大好きな千ひろのたきがありま

す。千ひろのたきは、落差六十メートルあり、たくさんの水が流れ落ちていきます。その横には、二百五十メートルかける三百メートルものかなり大きな花こう岩がたきを見守っています。その大きさが人が千人手を広げたほど

の大きさがあると言われていて、一人が両手を広げた長さを一ひろと呼ぶことから、千ひろのたきと名付けられたという事です。

両親に話をきくと、小さいころはたきつぼまで歩いて行けたそうです。ぼくは、たきを下から見上げたら、もっとはく力があるだろうなと思うし、両親がうらやましいです。

また、たきの水の量が少ないと、たきの奥の方に、おぼろさんが見えるそうです。ぼくはまだ見たことがありません。たきの水が少

- 4 、と。は、それぞれ一字にぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいまくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは三ぎようめに書き、文しようは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくごにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

ないのは、ごんねんなことですが、おぼうき
んを、採す楽しみがあると思つと、いつ行つ
ても見ごたえのあるたきだと思つます。

千びろのたきの森には、「げじべえ」とい
ようかいが住んでいふと言われているさうで
す。「げじべえ」は、木木や老木などに住みつ
いています。

その昔、屋久島では、炭焼きがさかんにあ
こなわれていたさうです。木そしてどん木どん木
を切つていふたのです。それにおこつた「げ

じでえ」が板な夜ないたがらをしてきたので
す。それがたいへんわかつたさうです。木
のようかいが、住処をあらされていくことへ
の人間へのていこうだつたのかもしれないと
言われているさうです。

今のこのすばらしい屋久島の森があるのは、
「げじべえ」のおかけがもしれません。そし
て人間と「げじべえ」と仲良しくらしている
のだと思つます。ぼくの学校では、一年生の
時に、「げじべえ」のお面を作ります。「げ

- 4 、と。は、それぞれ一字にぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいまくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは三ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

(月 日 曜日)

じやえし をそうぞうしなからみんないり
 なっびじやえし を作ります。つげじやえしと
 仲良くしています。そのおも面が平びるた子に
 あ子 商店にかぶっ ています。つかわいいけし
 やえし つちいけじやえし あります。ちび
 ろのたこた来 白らむひ 商店に入っ てぼくたち
 のつげじやえし も見てください。
 ちびるのたこのあ子 つげじやえしの里しで学
 んでい子 ぼくたちは、ちびるのたまのよう
 にかっこよく 生きていきたいです。

- 4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)

